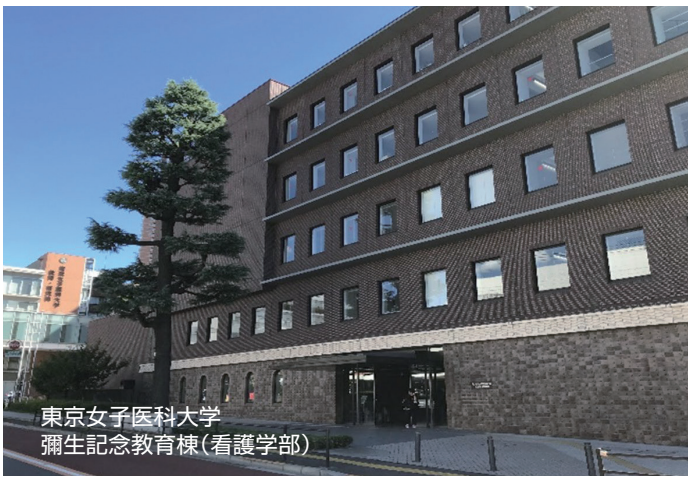
東京女子医科大学看護系同窓会

Tokyo Women's Medical University Nursing Alumni Association

Vol.26
同窓会会報
2026.10



みえる・つながる・ひろがる



News

2月 医療安全啓発センターが開設されました

～教職員・学生、患者・ご家族、そして市民が
ともに学び、対話し、医療安全を考える拠点～

開設日　2026年2月28日
場　所　総合外来センター1階北側
開　館　平日9時～17時
　　土曜(第3土曜を除く)9時～12時

病院へお越しの際は、ぜひお立ち寄りください



医療安全啓発センターの主な活動

展示や講演会、教育活動などを通じて、医療安全文化を育てます

- 事故の教訓を未来へつなぐ
- 教職員・学生への医療安全教育を進める
- 患者・家族・市民の皆さまと共に考える
- 医療安全の仕組みや取り組みをわかりやすく伝える
- インシデントや患者経験を改善につなげる
- 東京女子医科大学の全施設が連携し、医療安全をさらに高める

資料提供：医療安全啓発センター

Vol.26 特集

- 第26回看護系同窓会定例総会報告
  特別講演 朝比奈 秋 氏
- 同窓生の動向
  同窓会賞受賞者(第1回・第3回)
  クラス会報告

発行2026年10月15日東京女子医科大学看護系同窓会事務局

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 東京女子医科大学巴女子学生会館2階　office@twmu-nursing-aa.jp



三輪　生子

看護系同窓会　第9期会長
（短大4回生/修士課程1回生）

この一年、地震や台風、大雨による被害が各地で相次ぎました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、被災地で看護や復旧に力を尽くされた同窓生をはじめ、すべての方々に敬意を表します。また、日頃より本会の活動にご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

6月の第26回定例総会では、芥川賞作家で医師の朝比奈秋先生の特別講演を一般公開といたしました。二つの台風で本学が休校となるなか、ご来場は450名のお申し込みのうち183名、その6割が一般の方です。荒天のなかご登壇くださった先生と、足を運んでくださった皆様に、御礼申し上げます。

先生は救急の現場に立ってきた医師として、日本の医療が医療者の献身に支えられている実態を語られました。それは医療を受ける側への問いであり、裏返せば、医療の側にいる私たちへの問いでもあります。

アンケートには、医療系大学の同窓会が開く講演に期待する声もあり、お申し込みの方からは、公開へのお礼や、台風で来られなかった残念さを伝えるお言葉が届いています。SNSで紹介してくださった方もいらっしゃいます。来年は、お笑いの世界から講師をお招きし、引き続き公開いたします。

外へ向けた案内は、思いがけず内へも届き、便りの途絶えていた同窓生が連絡先を登録してくださいました。今号でご報告した二つのクラス会でも、同窓生同士が再びつながっています。本会の会員は9,800名を超えますが、連絡がとれるのは約半数の5,305名にとどまります。総会の投票者数は、2018年以前の300名ほどから1,300名を超え、投票率は25.1%です。会場にお越しになれなくても、本会からのご案内を受け取り、一票を投じ、ホームページをご覧いただく。それも会への参加です。

本会は、学び舎の異なる看護系の卒業生が一つの同窓会となって、今年で25周年を迎えました。同窓生のつながりを保ちながら、社会に開かれた会でありたいと願っています。皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



清水　治

東京女子医科大学　理事長
看護系同窓会　顧問

看護系同窓会の皆様には平素より学校法人の運営に多大なご協力、ご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。

貴会は、2001年に旧看護短大の閉校に伴い、看護系の卒業生の皆様が、学校制度の変遷を超えて一つの同窓会に結集されて活動されてこられました。これまで四半世紀にわたり研究成果発表会、講演会など熱心にご活動を続けてこられたことに深い敬意を表します。

さる6月には特別講演会を一般の聴衆にも公開する形で開催され、社会貢献活動に新たな形を示されました。講師には医師で芥川賞作家の朝比奈秋先生を迎え、『人間が本質的に癒える時ー「医学」と「芸術」の視点からー』についてご講演いただき、悪天候にも関わらず参加した多くの聴衆に感動を与えたことは記憶に新しいところです。

女子医大は、不祥事を克服すべく理事·監事·評議員を一新し、ガバナンスを再構築して、再生に向けて教職員一丸となって努力してまいりました。改善計画の着実な実施に取り組み2026年3月には、制度的な整備はほぼ終了し、再構築したガバナンス、コンプライアンス体制の維持·向上に努めております。

また、2026年4月より、新しい五か年計画「ビジョン2030 再生から発展へ」をスタートさせ、臓器別センターを設置し女子医大病院の伝統的な強みを拡充するとともに、財務の早期健全化に向けて改革を進めております。おかげさまで、本院、足立、八千代の3大学病院とも前年度に比べ外来、入院の患者様も増加し、病床稼働率も向上してきております。

今後とも、「至誠と愛」の理念に則り、優れた教育、研究、診療を提供できますよう最善を尽くしてまいりますので、引き続き皆様からのご支援ご協力をお願い申し上げます。



三谷　昌平

東京女子医科大学　学長
看護系同窓会　顧問

まず、東京女子医科大学看護系同窓会では日頃から会員の皆様がそれぞれの勤務だけでなく、同窓会での活動にご尽力いただいていることに敬意を表します。本学の看護系の卒業生は、歴史的には、大学としての組織の新設や改組により複数の出身学校の卒業生の集まりとなっています。そういう状況下で、学内の各自の出身母体に限定されず、学問的·文化的な交流を推進されていることはとても素晴らしいことだと感銘を受けております。このような取り組みは、診療の現場で働いておられる会員間の業務上の情報交換の場となり、業務の違いの理解に繋がることが期待されます。職場が異なっても、看護という仕事の課題を共有し、東京女子医科大学に連なることの意義を感じる所以です。

同窓会では、学会形式での発表会を開催されたことがあり、拝聴しました。卒業生の日頃の業務における課題に対する考え方と解決の取り組みを見せていただき、看護の質向上に努めておられることを嬉しく感じました。参加された会員の方も他の卒業生の日頃の努力を知る機会を作ることは、もしかすると、密かに悩んでいたことを他の卒業生が真正面から取り組んでいる姿を見て励まされることが多いのではないかと思います。そして、日頃、患者に最も近い場所で働いておられる看護師の方が勤務環境を改善し、より患者のために働き易くなることは、結局は患者の満足度に変わるのではないかと感じております。

本年の6月には作家·医師である朝比奈秋先生の講演会を開催されました。多くの方が聴講に参集され、感銘を受けました。さらには、看護に限定されず、医療従事者全般が診療活動中に感じる共通の問題意識などを言葉という形で実感できたのは大きな意義があり、医療従事者全体の共通した問題への向き合いに繋がったものと、医師である私が拝聴して感じたことでした。

今後もこのような取り組みを通して、東京女子医科大学という共通のキーワードの下に多くの方の成長や協力を続けていただくことを切に願っております。

看護系同窓会新規特別役員（会員）就任ご挨拶



齋藤　麗子

一般社団法人至誠会　会長
看護系同窓会　特別役員（会員）

2026年6月28日付で、一般社団法人至誠会代表理事として、東京女子医科大学看護系同窓会第9期特別役員を委嘱されました。東京女子医科大学医学部同窓会である至誠会にとりまして、学祖·吉岡彌生先生の志を受け継ぐ看護系同窓会は、長年にわたり大変身近な存在です。

至誠会におきましても、東京女子医科大学と同様、この数年間、元理事長をめぐるさまざまな問題が明らかとなり、社会から厳しい目が向けられました。至誠会理事会は、新体制への移行後、民主的な組織運営と積極的な情報公開を進め、社会および会員の皆様からの信頼回復に取り組むとともに、本部事業の充実や病院経営の改善に努めております。

新体制発足から2年目となった一昨年には、大学との関係にも改善の兆しが見られ、卒業式や入学式に参列して、学生の皆様にお祝いの言葉をお伝えすることができました。また、5月に執り行われた吉岡彌生先生のご命日の学祖墓前祭にもお招きいただきました。

一般社団法人至誠会は、本年、創立100周年を迎えます。会員数は1万人を超え、100歳を迎えられた先輩方も数多くいらっしゃいます。女性が生涯にわたって働き、社会とのつながりを持ち続けることは、自身の心身の健康を保つことにもつながるのではないでしょうか。看護系同窓会の皆様も、年齢にとらわれることなく、それぞれの場でご活躍のことと存じます。

今後、さまざまな分野でAIやロボットの活用が進んでも、医療や看護における人の温かさの大切さは、変わることがないでしょう。

これからも両同窓会が力を合わせ、東京女子医科大学のさらなる発展に貢献してまいりましょう。

受け継ぐ誇りと未来へつなぐ看護



青木　雅子

東京女子医科大学　看護学部長
看護系同窓会　特別役員（学部/修士課程/博士後期課程1回生）

東京女子医科大学看護系同窓会会報Vol.26の発行を、心よりお祝い申し上げます。また、日頃より同窓生の皆様には、母校の発展と同窓会活動に変わらぬご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

このたび、第9期特別役員を拝命いたしました。私は本学の学部·大学院で学び、現在は看護学部長として母校の教育に携わっております。学生として諸先生方の温かく熱心なご指導のもと看護の原点を学んだこのキャンパスで、今、次世代を担う医療人を育てる立場にあることに、深い感慨とともに大きな責任を感じております。

社会や医療を取り巻く環境が世界的規模で変化し続けるなか、看護に求められる役割も高度化し広がっています。しかし、どのような時代にあっても、本学が大切に受け継いできた「至誠と愛」の理念は、私たちの変わらぬ礎です。授業や実習に真摯に取り組む学生たちの姿に接するたび、この精神が確かに次の世代へ受け継がれていることを実感いたします。

2028年に看護学部は開設30周年を迎え、2030年には大学創立130周年、そして本学の附属産婆看護婦養成所から始まる看護学教育も100周年という大きな節目を迎えます。この長い歩みは、諸先輩方がそれぞれの時代、それぞれの場で看護を実践され、築いてこられた信頼と実績に支えられてきたものです。その深い足跡は、在学生や私自身にとっても、未来を照らす大きな道標となっています。その歩みを誇りとして受け継ぎながら、新たな時代の看護教育を創り、社会に貢献する医療人を育てていくことが、今を担う私たちの使命であると考えています。

同窓生として、そして本学の看護学教育に携わる者として、同窓生の皆様とともに、受け継いできたものを次の世代へ確かにつなぎ、本学看護の未来を拓いてまいりたいと存じます。

同窓生の皆様のますますのご健勝とご活躍、そして母校のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。



山口　淳一

東京女子医科大学病院　病院長
看護系同窓会　特別役員（会員）

2026年4月1日付で東京女子医科大学病院長を拝命いたしました山口淳一です。このたび、東京女子医科大学看護系同窓会第9期特別役員への就任をご承認いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

本学は創立以来、「至誠と愛」の理念のもと、真心と思いやりをもって患者さん一人ひとりに寄り添う医療を大切にしてまいりました。現在、私たちはこの原点に改めて立ち返り、「新生　東京女子医科大学病院」として、皆様から信頼される病院を目指し、新たな歩みを進めています。

病気や治療に向き合う患者さんにとって、医療の場は不安や戸惑いを伴うものです。高度で安全な医療を提供することはもちろん、患者さんの思いに耳を傾け、安心して治療を受けていただける環境をつくることが、私たちの重要な使命です。その中で、患者さんに最も近い場所で支え続ける看護職の果たす役割は、ますます大きくなっています。

また、質の高い医療は、医師だけで実現できるものではありません。看護師をはじめ、医療技術職、事務職など、すべての職種が互いの専門性を尊重し、力を合わせることで初めて成り立つものです。職員一人ひとりが誇りを持って働き、「この病院で働いてよかった」と思える環境をつくることも、病院長としての大切な責務であると考えています。

長年にわたり本学の看護を支え、その精神と伝統を受け継いでこられた同窓会の皆様のお力は、これからの東京女子医科大学病院にとっても大変心強いものです。皆様とともに「至誠と愛」の精神を次の世代へつなぎ、患者さんからも職員からも信頼される病院を築いてまいりたいと存じます。今後とも温かいご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

第26回定例総会東京女子医科大学看護系同窓会

2026年6月27日（土） 東京女子医科大学弥生記念講堂

〈プログラム〉

12:00　定例総会議長：山内典子書記：柴田典子選出
　　審議事項：第1号議案～第6号議案
13:15　特別企画一般公開講演
　　会長·来賓（理事長·学長）挨拶·祝辞
　　朝比奈秋氏（芥川賞作家／医師）

詳細は、ホームページ【会員専用】の「総会資料」をご覧ください（PW：twmu2026）

会員専用

総会審議事項報告

東京女子医科大学看護系同窓会会則
第4章　会議および総会　会則_会員　第14条
　2.総会は、正会員および学生会員の出席人員より成立する。
　3.議事は出席者の過半数により決定する。可否同数の時は、議長の決するところによるものとする。

議案		賛成	反対※	棄権
第1号議案	2025年度 事業報告	1309	0	13
第2号議案	2025年度 決算報告	1307	0	15
第3号議案	第9期役員の一部変更	1309	0	14
第4号議案	新規事業提案	1305	3	14
第5号議案	2026年度 事業案	1309	0	15
第6号議案	2026年度 予算案	1306	0	16

※反対事由の記載なし

第1号～第6号議案ともに賛成多数で可決

発送数・投票率

区分	案内方法	送付	不達	配布数	投票	%
在校生	メール	596	0	596	524	87.9%
現役校卒業生	メール	1272	0	1272	798	31.0%
	官製はがき	1331	31	1300		
旧同窓会員／大学院	メール	365	26	339		
	郵送	1786	18	1768		
合計		5350	75	5275	1322	25.1%

会員数　2026.9

分類	学校名		登録者数※1	連絡可能数※2
A	1965年以前の女子医科大学看護系学校		128	52
B	附属高等専門学校→附属看護専門学校		1179	449
C	短期大学および専攻科		2263	1070
D	附属第二高等看護学校→附属第二看護専門学校		1067	422
E	看護専門学校	卒業生	2286	1273
		在校生	224	224
F	看護学部	卒業生	2262	1288
		在校生	357	357
G	大学院	登録修了生	228	155
		在校生	15	15
合計			10009	5305

※1 延べ数　※2 実数　＊賛助会員（18名）

特　別　講　演

人間が本質的に癒える時 ―「医学」と「芸術」の視点から―

朝比奈 秋 氏



今回の特別講演会では、朝比奈秋先生にお話しいただきました。ご多忙のなかお越しくださった先生と、ご縁をつないでくださった同窓生に、心より感謝申し上げます。

先生は1981年、京都府のお生まれです。医師として勤務しながら小説を書き始め、2021年に「塩の道」で第7回林芙美子文学賞を受賞し、作家としてデビューされました。その後、『植物少女』で第36回三島由紀夫賞、『あなたの燃える左手で』で第51回泉鏡花文学賞と第45回野間文芸新人賞、2024年には「サンショウウオの四十九日」で第171回芥川龍之介賞を受賞されました。デビューからわずか3年で、男性作家として初めて、純文学の新人賞三冠（三島賞·野間文芸新人賞·芥川賞）を果たされました。

2026年には、救急医療の現場を描いた『受け手のいない祈り』で、第76回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞されています。

すぐに受けられる医療を支えるもの

先生には、地方の救急病院で月300時間を超える時間外労働をした時期がありました。安く、誰でもすぐに受けられる日本の医療は先進国でも例がなく、国の負担と医療者の献身で成り立っています。医療者は、患者さんからの暴言や身体への接触も飲み込んできました。社会はその人たちに十分なことをしてきたか。

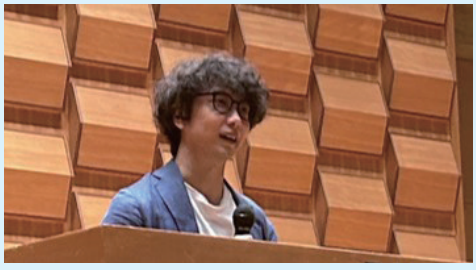
先生はそう問いかけ、受診する側にも理解を求められました。3時間待てば診てもらえるのは世界では恵まれた状況であり、現場は手一杯のなかで支えているのだ、と。

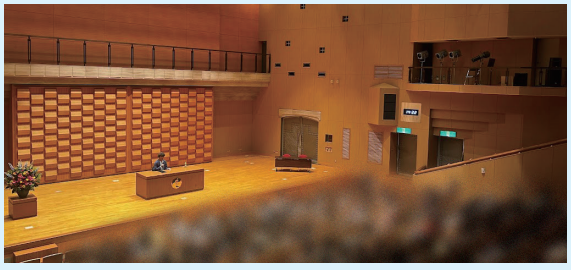
書くことで偏見に気づく

35歳のとき、物語が勝手に浮かぶようになり、先生は自分を癒すために書き始めました。人工肛門になる女子大生を描いた『私の盲端』を書き終えて、オストメイトを惨めだと無意識に見ていた自分の偏見に気づいたといいます。『植物少女』では、呼吸だけをして生きることと、意識をもって生きることの境目がなくなったそうです。

事実を書き、悲しみ切る

大切な人を亡くした傷を書くとき、多くの人はその人が生き返る物語を書きます。しかし事実は、その人がいなくなったことであり、だからこそ深く傷ついた。亡くなったことをそのまま書き、悲しみや怒りを何度でも書き出す。『受け手のいない祈り』は、当時の勤務への怒りを書き尽くした先で、主人公が自分のために祈れるようになる物語だと語られました。





会場の様子

大切なものを失った後にも残る喜び

悲しみ切ると、「それでも大丈夫」と思えるようになる。その可能性を先生に教えたのは、聴力を失った後に『第九』を完成させたベートーベンでした。条件付きの喜びは、いつか奪われる。けれど無条件の喜びは、弱い人にも、病む人にも残されている。それが希望だと先生は述べられました。

かっこつけずに書く、他者のために祈る

書くコツは、他者に見せないこと、自分にもかっこつけないこと。うまさは問わないといいます。他者のために祈るとき、人は自分のためにも祈っている。「どうしようもないことがあった時に、この話を思い出してもらえれば嬉しいです」と先生は講演を結ばれました。

結びに

講演の前、オンラインで打ち合わせをした折のことです。先生のお話を伺ううちに、参加した理事のほとんどが、いつしか目を潤ませていました。画面越しでも、先生の言葉は私たちの琴線に触れました。

当日も、先生の京都弁は、それだけで聴く人の心をほどいていくようでした。質疑応答では、一つひとつの問いに丁寧に答える先生の姿に、会場が一つになっていくのを感じました。人間が本質的に癒える時とは何か。その答えの一つは、先生の語りそのものにあったのかもしれません。

質疑応答は時間の都合で2名の方にとどまりました。手を挙げてくださったのに、お応えできなかった皆様に、この場を借りてお詫び申し上げます。



講演後の花束贈呈

講演の詳細とアンケートの集計結果は、ホームページ【会員専用】の「総会報告」に掲載しています

講演の前



台風が近づき、開催を案じていたときのことです。朝比奈先生は「どんなに人数が少なくても行きますよ」と言ってくださいました。この一言で、開催する決心がつきました。当日も先生は早めに到着され、控室で、事前に希望された方の本にサインをされました。写真は、そのときの先生の姿です。

書籍販売とサイン会







講演の後、講堂のロビーで開いた書籍販売とサイン会では、サインを求める方の列が続き、事前のサイン本も含め、多くの方が先生の本を手にされました。

書籍の販売は、新潮社、河出書房新社、朝日新聞出版の皆様のご協力によるものです。心より御礼申し上げます。

朝比奈先生の「今」――小さな文芸誌『アンデル』

『アンデル　小さな文芸誌』(中央公論新社)

現在、中央公論新社の月刊文芸誌『アンデル 小さな文芸誌』で、2026年1月の新創刊号から「アンチエイジングクラブ東京」を連載されています。若返り医療を題材に、老いたくないという願いのためなら手段を選ばない人々が描かれています。

老いを受け入れようとする自分と変えようとする自分。どちらも同じ人間の中にあるのだと思います。

A5判80ページ、税込330円。毎月10日発売です。



毎号変わる表紙の色も、この雑誌の楽しみの一つです。ここでは第1·3·5·7·9号を並べました。

総会後記

台風が接近するあいにくの悪天候のなか、第26回定例総会と朝比奈秋先生の特別講演会を開催いたしました。足を運んでくださった皆様に、心より感謝申し上げます。今回は講演会を一般公開とし、学外から多くの方をお迎えしました。会場に不慣れな方へのご案内、荒天時の判断、安全の確保といった運営の備えは、来年に向けた課題として受け止めています。より多くの方にお越しいただける会にするためにも、同窓生の皆様に、迎える側として総会に関わっていただけたら幸いです。講演で先生は、「他者のために心から祈るとき、人は同時に自分のためにも祈っています。他者を癒すことで自分も癒される。すると前向きな循環が生まれます」と語られました。自分を労わることは、他者を支える力になるのだと思える言葉でした。開催にお力添えをいただいたすべての皆様に、深く御礼申し上げます。

【第26回定例総会担当理事 髙橋典子·三好麻実子】

同窓生の動向　同窓会賞受賞者の寄稿　※全文は本会ホームページへ（QRはP6）

卒後1年目　同窓会賞 第3回受賞者のいま（2025年度）

同じ場所で、見えるものが変わった



奥富 愛莉

看護学部 25回生／埼玉医科大学短期大学専攻科 母子看護学専攻

学部では、さまざまな人への看護と、地域に暮らす人の生活を支える視点を学びました。母性看護学の授業に心を引かれ、「おめでとうございます」と言える仕事に憧れて、いまは埼玉医科大学短期大学専攻科で助産師を目指しています。

異常を早く見つけるだけでなく、安心して過ごせるよう支える。いまの分娩期実習では、産婦さんがこれまでどんな思いを抱え、いまどんな思いで過ごしているかを考えながら関わることの難しさを感じています。

NICUの見学では、学部時代は赤ちゃんの疾患や家族の気持ちを中心に見ていました。専攻科では、妊娠・出産の経過や母親の思い、授乳にも目が向くようになりました。学びを重ね、立場が変わることで見えるものが変わっていくのを実感しています。

一方で、知識や技術の不足を感じ、周囲と自分を比べて不安になることもあります。何でも一人で抱え込みがちな私が、周囲に相談し支えてもらうことも専門職として大事だと気づきました。異なる経歴の学生と学ぶ中で、ケアの正解は一つだけではないと感じています。

妊娠から出産、産後の生活までつなげて考えながら、その人らしい生活を支える自分の助産師像を少しずつ築いています。

抜かれて困るのは、誰なのだろう



櫻井 瑠奈

看護専門学校 29回生／附属足立医療 救命ICU

病棟で自己抜去の事故が続いていた頃、挿管中の患者さんを受け持ちました。複数のラインが入り、手が顔まで上がると抜去につながるため、抑制帯とミトンを使っていました。「これ外せる？」「いいから取りたいの」。そのたびに「今は外せないんです」と返していました。そのとき私は、取りたい理由を一度も聞いていませんでした。

受け持ちとして、「自分が担当しているときには抜かれてほしくない」という気持ちが強くありました。ラインが抜ければ生命に関わります。それでも、**「安全のため」という言葉の中に、医療者側の都合まで含めてしまってはいないだろうか。**抜かれて困るのは、誰なのだろう。

それからは「何がしたいですか」と聞くようにしました。吸引が苦しくて、やめてほしかったのかもしれません。安全を守るために身体拘束が必要な場面はあります。けれど、そばで見守れる時間には可能な範囲で外し、目を離せない場面では使う。その人の状態に合わせて考えることもできたのではないかと思います。働き始めたばかりの私に、正解は分かりません。それでも、生命を守ることと、一人の人としての尊厳を守ること、そのどちらも大切にできる看護師を目指していきます。

卒後3年目　同窓会賞 第1回受賞者のいま（2023年度）

「ちょっと待ってください」が、口癖になっていた



中水 風音

看護学部 23回生／本院 救命ICU

「ちょっと待ってください」――2年目の終わり頃、それが私の口癖になっていた。患者さんにとっては、いますぐ解決してほしいこと。それを、私の中の緊急性と優先度の順番で、待たせている。勤務が終わると、自宅で一人反省会を繰り返した。寄り添えていないのではないか。内科を志望した理由は、「患者さんに寄り添いプライマリーケアをしたい」――そのはずだった。

復職を目指すAさんと目標を分かち合い、看護を楽しいと思えた日も、確かにあった。夜勤リーダー業務が始まると、景色が変わった。業務量は増え、看護を考える余裕は削られ、ただ業務をこなす頭になっていく。**何もかも、中途半端な気がした。**同期と話しても、モヤモヤは残り続けた。憧れていた先輩がいる。相談したい。でも、久しく連絡をしていない。毎日迷っていた。そんなときに突然、先輩のほうからメールが届いた。聞いてもらううちに、自分に足りないもの、自分のしたい看護が、少しずつ言葉になっていった。

アセスメント力を身につけたい。プライマリーケアを深めたい。将来、僻地医療に携わるなら、急性期の看護も経験しておきたい。その思いで、救命ICUへの配置転換を希望した。いまの自分にできることを重ねながら、寄り添える看護を探していきたい。

2年前まで、新人だった ―教えながら、学び直す―



竹澤 朝美

看護専門学校 27回生／附属足立医療センター ICU

看護師としては、2年前まで新人だった。目の前の業務で一杯一杯で、苦しくても踏ん張り続けた日々だった。

その私が3年目になり、今年度は新人のフォローと係を任された。意識障害のある患者さんを受け持った時、新人がシャドーイングに入った。大変さや怖さだけでなく、一人の人として接していることを実感してほしくて、いつも通りに患者さんに話しかけ、バイタルの変動から今感じているだろう苦痛のアセスメントを伝えた。自分が家族だったらどう思うか。社会人を経て看護師になった自分の経験も交えて話した。

教えることは、学び直すことでもあった。心不全の薬剤について、どの症状にどの薬を使うかは分かっていた。新人に説明しようとして、細胞レベルの作用までさかのぼる必要に気づいた。どこまで任せるかを悩んで相談し、フォローする側が責任をとれる範囲で経験させてはどうかという助言が軸になった。

不安はなくなっていない。ただ、中身が変わった。1年目は、目の前の自分の業務にしか向かなかった。いまは、ICUが部署として円滑に回るかに向いている。教える立場になって、自分も多くの人に支えられてきたと実感している。これからも、後輩にとって相談しやすい存在でありたい。

同窓生の動向　クラス会報告







クラス会｜看護短期大学 22回生
2026年5月23日　**山内 典子**

10年ごとの再会、3回目は23名で

5月23日（土）、日比谷松本楼 東京女子医大店グリーンテラスで、22回生のクラス会を開きました。集まったのは23名。卒業後10年の節目から10年ごとに集まり、今回が3回目です。料理とお酒を囲み、学生時代のアルバムを手に思い出話に花を咲かせました。来られなかった仲間もオンラインで参加し、それぞれが今も看護の仕事に携わっていることを伝え合いました。会の後の見学ツアーでは、弥生記念講堂地下のホワイエや臨床講堂、薄暗い地下道の変わらぬ風景を懐かしみ、旧1号館・2号館の跡地に建つ彌生記念教育棟に女子医大の発展を感じました。

※本会より見開きファイルを贈呈しました

クラス会｜看護短期大学 6回生
2026年6月27日　47回幹事代表 **鹿渡 登史子**



古希　卒業50年、50年ぶりの同級生も









短大6回生（44名）は、卒業の年から毎年クラス会を続けてきました。若い頃は仕事や育児、年を重ねてからは病気や介護で参加できない時期があっても、「参加できるようになるまでクラス会は続けていて」という願いを大切にしてきました。古希を迎え、卒業50年の節目となる今年は、母校を訪れてそれぞれの看護と人生を振り返りたいと看護系同窓会に相談し、定例総会と同じ日に開きました。総会案内に同封していただいたチラシを見て同級生3名から連絡があり、うち1名は50年ぶりの参加です。台風で5名が欠席し、7名が集まりました。

昔は夜の患者搬送で暗くて怖かった地下通路を抜けて、彌生記念教育棟へ。看護学部では、演習を事前の動画学習で補っていると伺い、50年の時の流れを感じました。大学史料室では同級生が寄贈した短大のユニフォームと再会し、総合外来センターと新設の医療安全啓発センターも見学しました。ランチでは昔のアルバムを回して盛り上がり、午後は総会と朝比奈秋氏の講演に参加しました。　※本会より同窓会エコバッグを贈呈しました

紙面は抜粋です。受賞者4名の寄稿の全文と後記、クラス会報告は本会ホームページ【会員専用】の「写真館」へ（PW：twmu2026）

同窓会からのお知らせ ――「クラス会を女子医大で開きませんか」

今年度は、短大6回生と22回生のクラス会が女子医大内で開かれました。本会は試みとして、学内見学の許可の取り次ぎ、当日のご案内、総会案内への同級生向けチラシの同封とメール配信、同窓会グッズの贈呈を行いました。これをきっかけに、連絡の途絶えていた同窓生が数名、新たに連絡先を登録してくださいました。クラス会は、本会にとっても同窓生とつながる大切な機会です。この取り組みを会員支援の事業とすることを、来年度の総会で提案したいと考えています。女子医大内でのクラス会をお考えの方は、どうぞ本会へご相談ください。

（同窓会お問い合わせ先office@twmu-nursing-aa.jp）

訃報　謹んでご冥福をお祈り申し上げます

小野（旧姓:殿山）久枝 様	（東京女子医科大学附属高等看護専門学校1970年卒）	2026年2月15日（享年87歳）
大森 武子 先生	（東京女子医科大学看護短期大学名誉教授賛助会員）	2026年4月4日（享年90歳）
上條（旧姓:土屋）るみ子 様	（東京女子医科大学看護短期大学1975年卒）	2026年5月14日（享年72歳）

皆様それぞれのお立場で、本学の看護をよりよきものへと尽力されたことに敬意を表するとともに、本会一同、これまでのご功績を深く偲び、感謝を捧げます。

※ 同窓生のご逝去をお知りになりましたら、どうか同窓会事務局までお知らせくださいますよう、皆様にお願い申し上げます。

掲　示　板

看護系同窓会からのお知らせ

来年度東京女子医科大学看護系同窓会定例総会

第27回開催予告

日　　程：2027年6月26日（第4土曜日）
場　　所：東京女子医科大学弥生記念講堂
開催形式：対面開催
特別講演：コラアゲンはいごうまん氏

様々な現場を体験取材し語る体験ルポ芸人
200本を超える演目は全て実体験
笑って泣いてためになる唯一無二の語り芸



第27回は趣を変え、笑いを通じて医療の現場を見つめる一日として企画いたしました

【一般公開】笑って、泣いて、心に残る一日を皆様お誘いあわせの上ご参加ください

同窓会オリジナルグッズ販売

ホームページからお申込みください

商品は、※原価より値下げして販売

✧ワインレッドコンビバッグ/紺縦長バッグ（M）500 円
✧クリアファイル 透明20円／色付き30円
✧不透明ファイル 300円（A4見開き赤・青・白）
✧エコバッグ 300円（グレー・ターコイズ・黒・オリーブ）
✧ナースウォッチ（価格はHP参照）



ホームページへ写真館掲載記事・写真募集

母校ゆかりの懐かしい写真や思い出の品、エピソードを募集しています。
ご寄贈いただける方は、ホームページ「お問い合わせ」からご連絡ください。

【会員専用PW：twmu2026】　✤毎年変更

東京女子医科大学看護職員募集

『新生女子医大 共に創る仲間募集！』



雇用形態：正職員・臨時職員
職種：看護師・診療看護師

「勤務時間・勤務地・領域は要相談」

インスタ始めました

instagram

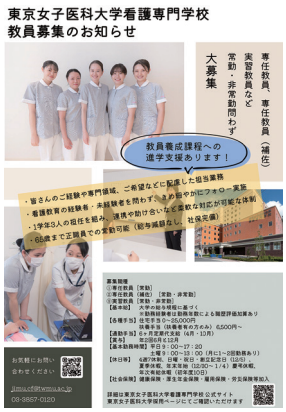
本学3施設の診療科の特徴や、看護のやりがいについて掲載しています。
現場の写真やイベントに関する情報も満載です！

採用サイト

【お問い合わせ】看護職雇用推進室 ☎03-5269-7462
recruit-nurse.bm@twmu.ac.jp

看護専門学校教員募集

『看護教育を共に創る仲間募集！』



専任教員、専任教員（補佐）
実習教員など
常勤・非常勤問いません

- ●教員養成課程への進学支援制度あり！
- ●経験・専門領域、希望を配慮した業務
- ●教育未経験者へのフォロー
- ● 1学年3人体制、柔軟に対応
- ●65歳まで正職員で常勤可能

【お問い合わせ】　☎03-3857-0120
jimu.cf@twmu.ac.jp

法人寄付金のお願い

寄付の種類:
・大学環境整備等への寄付　・奨学寄付　・創立130周年に向けての寄付　・遺贈による寄付、【ふるさと納税】制度による東京女子医科大学への寄付 など

※詳細はQRコードよりご確認ください

東京女子医科大学図書館利用ご案内

学外同窓会員は入館時に同窓会発行の会員証が必要

【会員証申込方法】HP「お問い合わせ」より、件名「会員証発行依頼」
氏名(現姓/旧姓)・生年月日・卒業校・卒年を記載

※図書館HPで利用規定をご確認ください

東京女子医科大学看護学会

看護学会入会案内

本会は、会員の相互の学術的研鑽と交流を図り、看護学の発展を目指すことを目的としています。本学会の発展にお力添えをお願いするとともに、皆様のご入会を心よりお待ちしております。

※詳細はQRコードよりご確認ください

看護学会第23回学術集会のご案内

日 時：2027年10月2日（土）
会 場：弥生記念講堂ほか（対面開催）
大会長：木所 篤子（東京女子医科大学附属足立医療センター看護部長）
テーマ：「看護の本質を考える ―生活の場を整える―」

※詳細は看護学会ホームページにてご確認ください

大学院看護学研究科募集

- ●博士前期課程
- ●博士後期課程

応募期間　第1期：7月頃、第2期：12月頃

- ●大学院 科目等履修制度募集

※詳細はQRコードよりご確認ください

連絡先変更届

★☆★送料削減のため、メール登録をお願いいたします★☆★

▶ご登録：ホームページ≪連絡先変更届≫または右記QRコード

◆ メール、届いていますか？ 配信メールの**約30%が未開封**です。◆

・**迷惑メールフォルダをご確認のうえ、送信元アドレス（office@twmu-nursing-aa.jp）を受信許可リストにご登録ください。**　※まだメール登録がお済みでない方は、ぜひこの機会にご登録をお願いいたします。

編集後記

会報第26号をお読みいただき、ありがとうございます。今号には、二つのクラス会からご報告が届きました。母校に集まってくださったことで、連絡先の分からなかった方とも再びつながり、このつながりが写真館を通してさらに広がることを願っています。
同窓会賞受賞者の近況は、卒後1年目と3年目を並べて掲載しました。その違いから、キャリアを積み重ねる途上で通る迷いが浮かび上がります。四人の寄稿は全文をホームページに掲載し、一編ごとに後記を添えました。どうぞ後記までお読みください。
今回は、会報担当が自ら編集に取り組み、寄せられた文章を要約するだけでは記事にならず、何を伝えるかを見定めることが編集だと学びました。試行的に使ったAIも、看護と同じく、使う側の考えと判断があってこそ役に立つと感じています。
最後になりましたが、ご寄稿・ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

【会報担当プロジェクト】